



教室の教室

巨乳なクラスのアノ娘がターゲット

私は今日も彼女を
放課後に呼び出し説教を
する。



決して劣等生だからと
いう事ではない。

彼女のこの胸が
いけない……



この娘の
胸を揉んで
みたい……
私は
理性の限界の
所で
踏みとど
まっていた。

彼女は私のクラスの生徒だ。

でも、この年でこのサイズの胸はありえない。。。。

ちょっとしたアイドルよりも魅力的だった。

決してロリコンではないと思っていたが、体つきはもうすでに女なのだ。

私は理性をギリギリ保ちながらも毎日彼女の巨乳を妄想し、オナニーをした。

そして次第に私はその妄想の力に勝てなくなっていくた。

授業中は彼女に密着するチャンスだった。

私は彼女の背後から彼女の胸を堪能しながら
自分の物を彼女の背中に押し当てた。

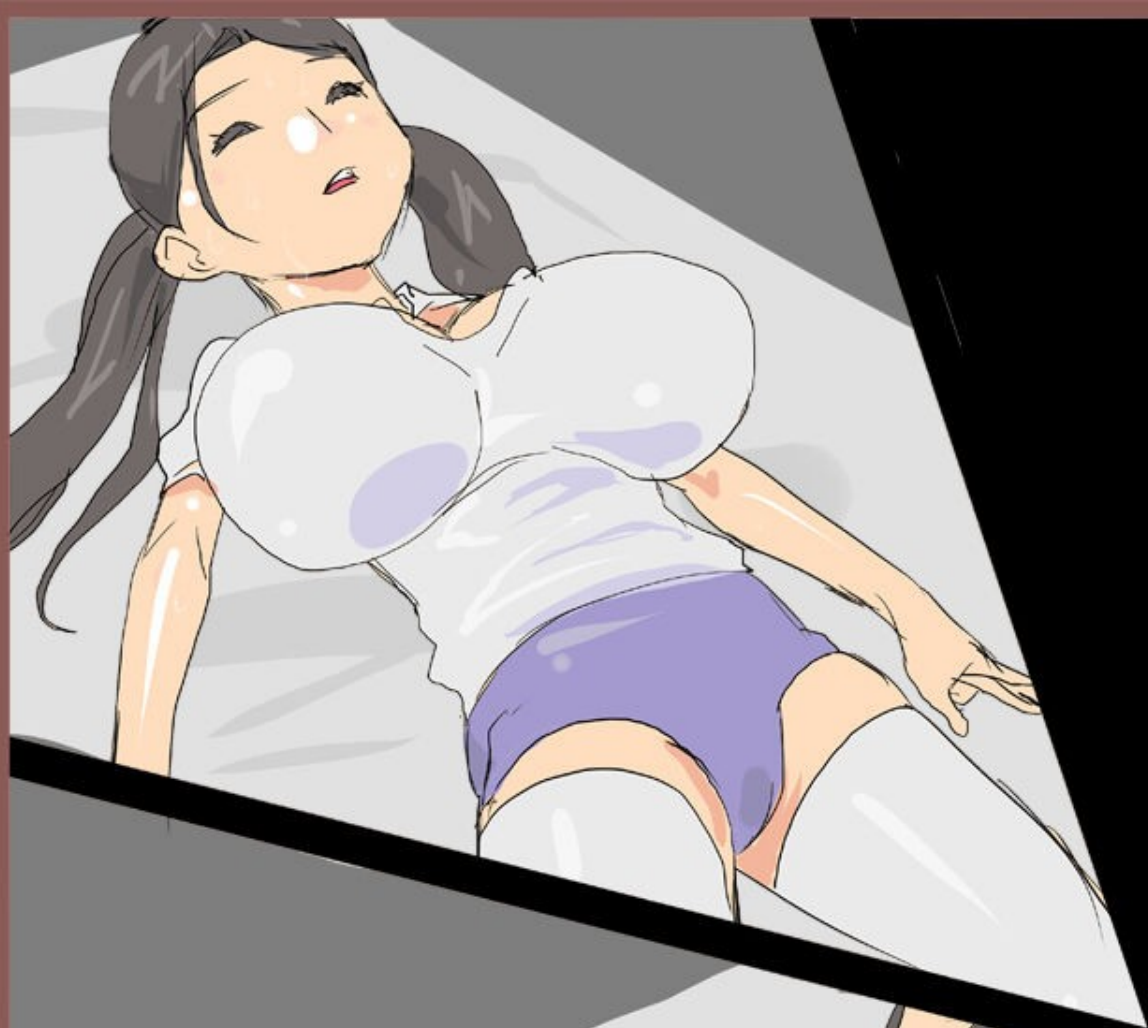
彼女は私の卑猥な物が
あたってるなんて知る
よしもないようだ。

体育の時間等は彼女の
乳を堪能できる至極の時間だった。

走るだけで彼女の
おっぱいは騎乗位で突き上げる
ようにブルブルと揺れた。



私は彼女をしごきまくり、結果熱中症で倒れてしまった。
保健室につれていくという予想外の展開に
私は理性を抑えられなくなった。



一度とんでしまった理性は
抑えられなかった。



私は彼女の
大きなオツパイを揉みまくった。



なかなか起きない彼女に
私はついに我慢できなくなった。

身体検査の時に
チラっとみた時以来の
彼女のナマ乳だった。

身体検査の時わざと
タイミングをはかって
部屋を覗いたあの日・



私は彼女の
オッパイに
かぶりついた。

彼女が起きてしまえば
私の教師人生はおしまい
になる……

しかし止められなかった。





おっぱいに吸い付き
顔を埋めたが彼女はなかなか
起きなかった。

もう

手や顔を埋めるだけでは満足
できない。。。

私は自分の物を

彼女のおっぱいに。。。

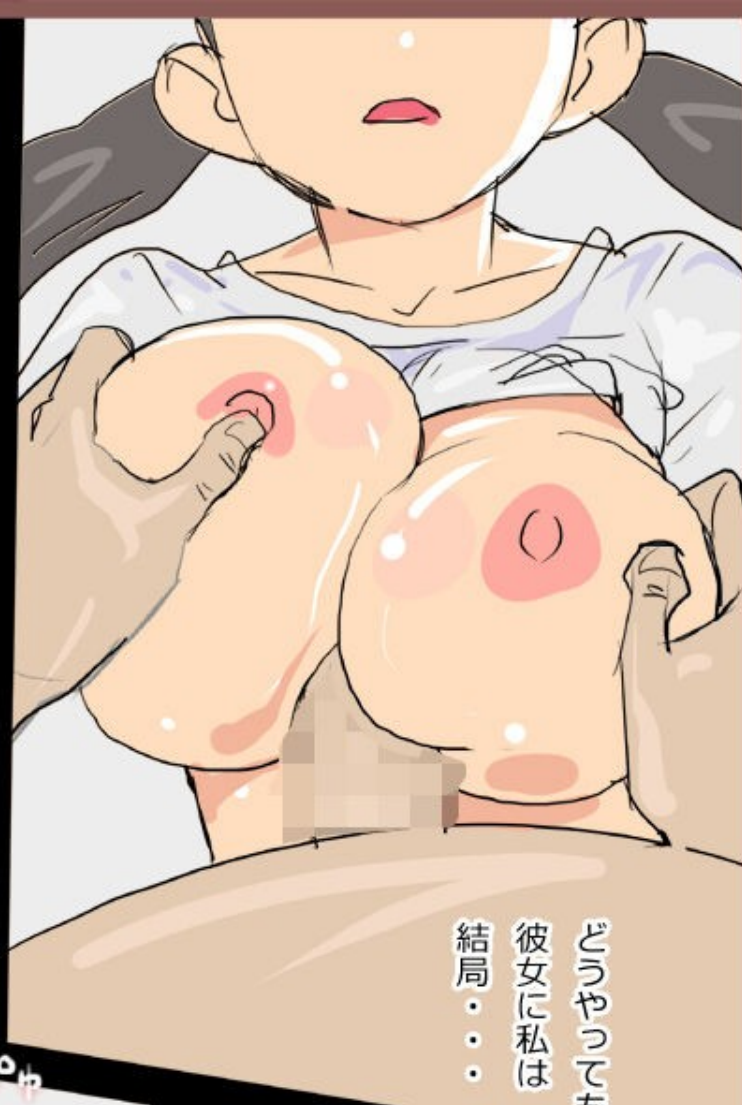




私は彼女のおっぱいでパイズリをした。
この年でこんな大きなおっぱいの女の子
相手にパイズリなんてした事はなかった。



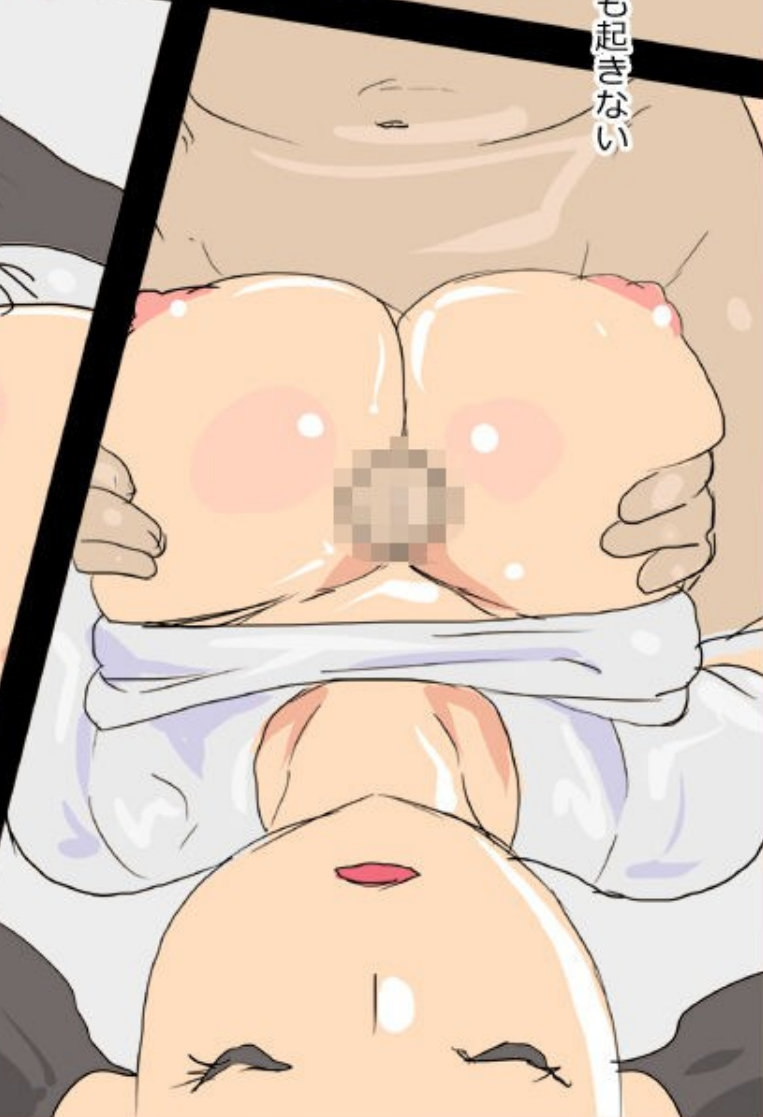
目の前で繰り広げられる
アダルトビデオのような
展開に私は興奮を止められなかった。



どうやっても起きない
彼女に私は
結局・・・



とっち



彼女にバレないように私は

慎重に彼女の体を拭き

彼女をそのまま保健室で寝かせたままにした。

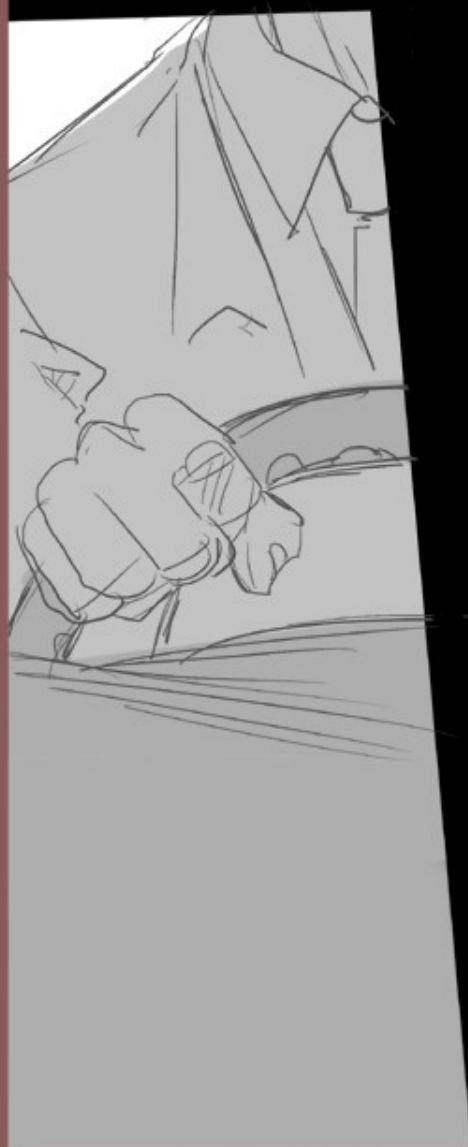
この事はきつと誰にもばれずにいけた

はずだった。

しかし私の中ですっかり変わってしまった事があった。



私の中で
変わってしまった事。。



それは私にとって
この娘が彼女のような存在になってしまったという事
だった。

たった一度の悪戯が私に彼女の全てにたいする
独占欲を生んでいた。

私は彼女を家に送るといいながらも
自分の家へ連れ込んだ。





私の家の防音は完璧だ。
私は叫ぶ彼女を
もてあそびながら
彼女の服をひん剥いた。



こうなったらもう
彼女は私の自由だった。

見れば見るほど
いい体だった。

私はさっそく彼女を味わって
みた。





おそらく人生で初めてイクという事を
彼女は経験しただろう。
私は執拗に彼女を何回も指でイカせた。



何度もいつでユルユルに
なったアソコに私は思いつき
挿入した。



彼女は私の物を
すんなり受け入れてくれた。



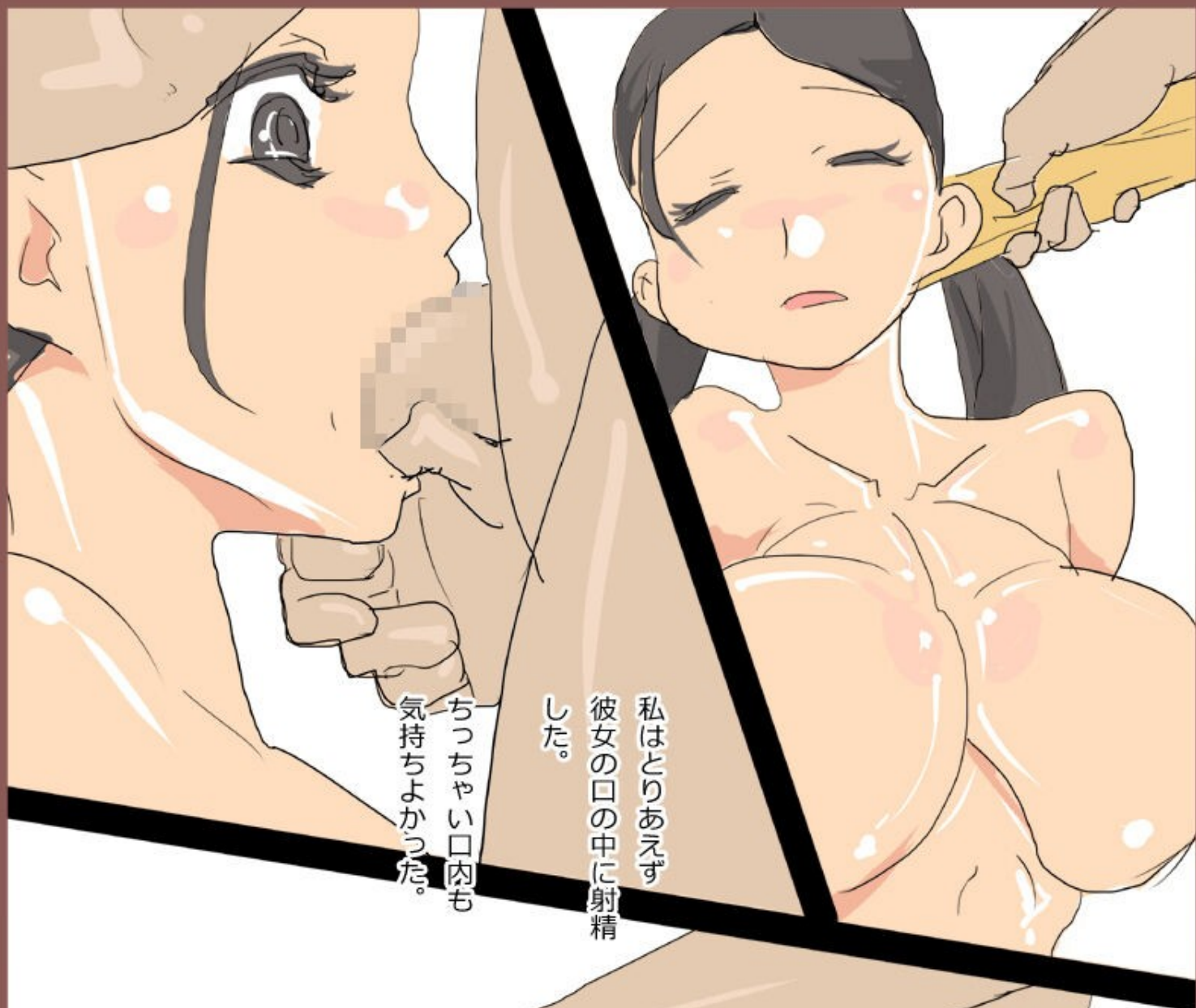
私が彼女を突き上げる
たびに彼女の巨乳が
いやらしく揺れた。



私は彼女を犯しながら
彼女に女性がどうやって妊娠するかを
ささやき続けた。



このまま中に出せば
先生の子供を妊娠できるよ・・・と



私は私の嫁になれと彼女に話しかける。

むるん彼女が了解するはずはなかった。

今日既に彼女に2回も射精していたが

彼女の嫌がる顔に私の気持ちは治まらなかった。

ここまで来たら彼女を完璧に自分の物にしたい。。。。



私は疲れきった彼女を
後ろから無理やり犯した。

背後から見る
ケツとか体のラインは
もう○学生とは思えない
体つきだった。

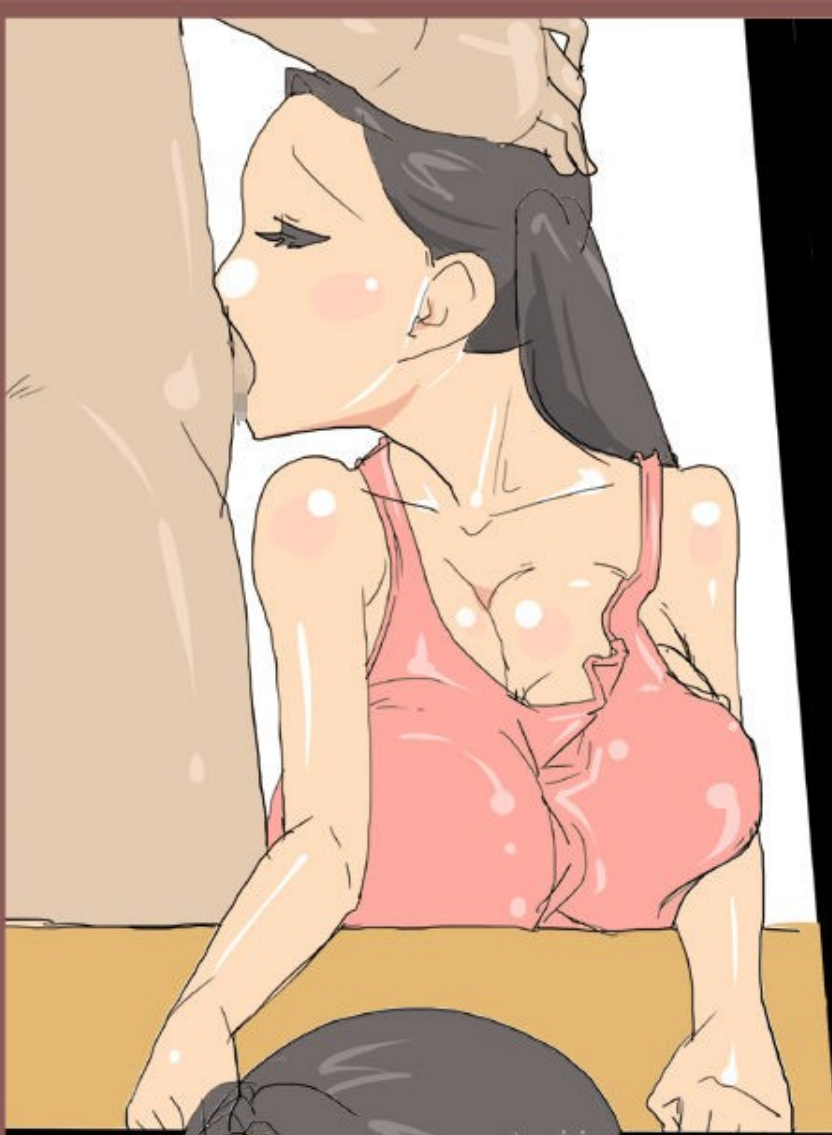


私はそのまま
彼女の膣の中に
中出しをした。

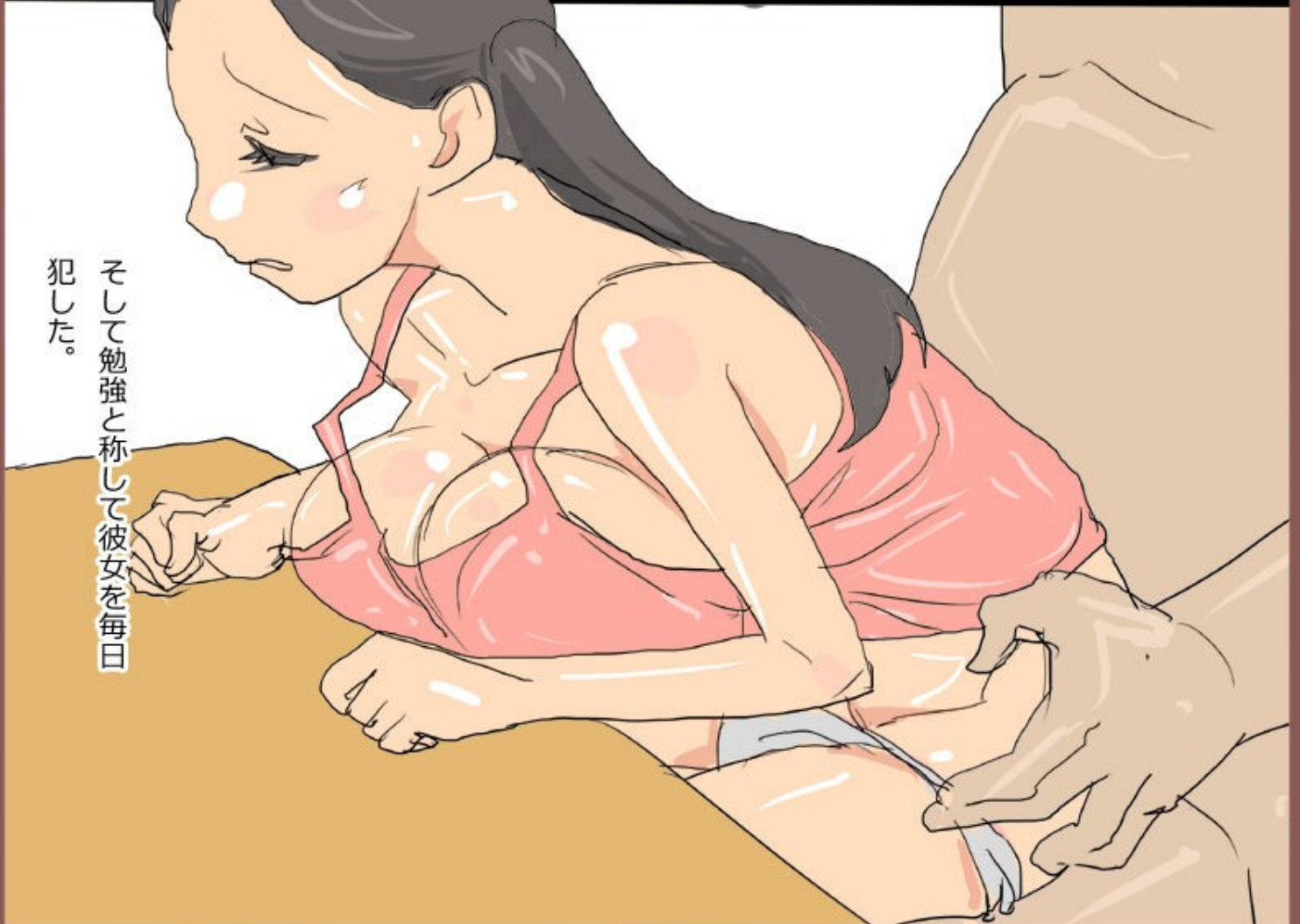


彼女をてなづけるのは難しくなかった。
罵倒し、優しく

それを繰り返した彼女は私の女になった。



そして勉強と称して彼女を毎日
犯した。





勉強部屋で○学生を犯す。。

彼女は完璧に私の奴隷と化した。

オッパイが大きい女を手にいれたら
今度は蜜乳の真性のロリにも

目覚めてくる自分が
いた。

今度は

クラスの誰を

私の嫁にするかな。。。。

く。。。。